

シリーズ「新教育課程を实践するために」

——教科目標・学年目標をどうとらえるか

新学習指導要領（中学音楽）改訂の意図を考える

上野正直◎熊本市立東町中学校教諭

◎「言葉と音楽のかかわり」から題材例（2例）

『小さい秋みつけた』『夏の思い出』

* この題材例（2例）は、音楽鑑賞教育7月号特集に掲載しました上野正直先生の論文の実践事例として執筆されたものです。本論と併せてお読みいただくことで、これからの時代の音楽科教育へのあり方についての示唆を得ることができるのではないのでしょうか。（編集部）

「言葉と音楽のかかわり」から題材例

◎内容A 表現（1）ア 歌唱教材：「小さい秋みつけた」

本稿掲載時を考えると季節はずれであるが勘弁していただいて、「歌詞の内容と旋律のかかわり」を学習する内容として（教材：『小さい秋』（サトウハチロー作詞・中田喜直作曲）でどのような授業ができるか考えてみたい。

教材観として題名は「小さい秋みつけた」とつけられている。「小さい」とつけたところに作詞者センスを感じる。また、作詞者の心情や歌詞からの情景、言葉と音楽とのかかわりを平易なようであるが、簡単にも、また深くも学べる曲であり、それぞれの意図をもって歌唱表現をする際にも多様な表現が歌唱曲である。

◎『小さい秋みつけた』（歌詞楽譜省略）

まずは題名から感じたことを問う。

「小さい秋」この「小さい」《形》という言葉に着目し、作詞者はなぜ「小さい」とつけたのだろうかと問う。生徒たちからはいろいろな意見が出てくるだろう。

<生徒の意見>

Aさん：「小さいとつけたのはすごいと思う。よく考えついたと思う。春は待ち遠しくて春が来た。という感じだし、夏も冬も来たぞ。という感じがする。だから小さいという言葉はあわない。しかし、秋は、ひっそりと、ふっと、気づいたときに少しずつ訪れている感じがするのであっている。

Bさん：歌詞の途中にめかくしおにさんで遊んでいるからめかくしをしていて敏感になっていて、そのときにちょっと秋の気配小さな秋の訪れを感じたのかもしれない。

Cさん：静かな秋の子どもたちが遊んでいる小さな風景だから

Dさん：小さな時、病気で遊べなかったときの思いや休んでいた窓の隙間から感じた秋の雰囲気、音風景、枯れ葉の音など、おぼろげな思い出を表わしている。

学習としては冒頭の旋律をくちずさんで歌う中、旋律と歌詞との関わりを探らせてみる。

冒頭の2小節は言葉が3回繰り返されるとともに旋律も繰り返されるなか始まっている。それもEmで。いかにも秋の気配が少しずつ訪れてくる感じがする。

では、生徒は題名の「小さい」に着眼しつつ、曲冒頭を口ずさむなか、この部分どんな歌唱表現の工夫をするだろうか。

<生徒の意見>

E「私はひっそりとした秋の訪れを題名の小さい秋から感じた。最初の2小節の部分は暗い感じではなく、ひっそり歌い始め、繰り返すうちに、少し強弱の変化をつけながら秋の景色の訪れ、静かな風景が浮かび上がるように表現したい」

F 途中にめかくしおにさんが出てくるので、最初はある程度、遊んでいる雰囲気でもリズムをはずませて少し明るく歌いたい。対照的に3小節目から深い音色でppからクレッシェンドをかけ、秋の訪れや心の動きを表現したい」。

いかがだろうか。旋律の働きと歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや根拠を曲の仕組みや歌詞のなかに見つけている学習の姿が見えてくると思う。何回か口ずさんで歌詞を味わっていくと、この曲は歌詞の内容と旋律のかかわりから、多様な「知覚」「感受」ができ、いろいろな表現の工夫ができることがお解りになるだろう。

平易な曲であるが、言葉の美しさやリズム。言葉の意味からだけでない作者の心情をも感受できる学習ができる。「最初のリズムはモズの声だと思います」「わらべうたのところだけ、旋律が明るくなっています」。生徒たちは感性を働かせて感じ取ったことを基に自分なりの思いや意図をもって歌唱表現の工夫をし、それに必要な技能で楽しんで歌おうとするのではないだろうか。

この曲は生涯通して思いをもって歌っていける曲であると思う。簡単な説明ですませたが、このような学習過程で進めさらに指導工夫を改善していけば、我が国の自然や四季、

文化、日本語のもつ美しさを音楽とかかわらせて味わい表現を工夫して歌うことができる質の高い題材・学習教材曲となるのではないだろうか。

◎共通教材『夏の思い出』から

『小さい秋みつけた』を例にあげ説明したが、前述のように共通教材が半復活した。私たちは改訂の視点を受けて、この共通教材においてどのような授業ができるかを今一度、見直す事が大切であろう。本県の中学校研究会が独自に作成している音楽ノートである。もちろん今後改善していく。

<音楽ノート：2頁>

熊本県中学校音楽教育研究会編（発行所：株式会社新学社）

夏の思い出

歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現をしよう。

1 この曲の作詞者、作曲者を書きましょう。

作詞	えま しゅうこ	作曲	なかだ よしなお
	江間 章子		中田 喜直

2 歌詞の中から好感をもつ部分を書き出しましょう。

例 石楠花色にたそがれる
なぜ選びましたか 石楠花色（淡紅色）にたそがれる風景を思い浮かべると、とてもきれいな感じがしたから。

3 曲を聴いて、歌詞や曲想（音楽）から自ら感じてイメージしたことを書きましょう。またその理由も書きましょう。

(例).....の感じがしたのは.....言葉だから。
(例).....の音楽(または部分)が.....だから。

イメージ	理由
<ul style="list-style-type: none">とても涼しい感じがして、暑さがとんでいきました。風景のきれいな所で、その場所にいると、時間がゆっくり進んでいく感じがしました。	<ul style="list-style-type: none">涼しい感じがしたのは、夏といっても真夏ではなく、初夏に似合った言葉がたくさん使っているからだと思います。時間がゆっくり進んでいく感じがしたのは、曲全体がのびやかで、速さも程よい速さなので、ゆったりした感じを受けるのだと思います。

4 右のページの楽譜について、形式の欄をまとめましょう。また a' と a" の伴奏は、曲想にどのようなはたらきをしているか考えてみましょう。

a'	
a"	

- 5** 作曲者はどのような意図でそれぞれの音楽記号を用いたのか考えながら、下の楽譜の
 [] にふさわしい記号を記入しましょう。また、楽譜の中の休符についても着目して考
 えてみましょう。
- 6** イメージを生かして歌うために、どのように工夫しますか。それぞれの段の下に書いてみ
 ましょう。

形式について
 まとめてよう。

♩ = 63 ぐらい

mp

(a)

工夫

(A)

p

(a')

工夫

(二部)形式

mp *pp* *mp* *dim.*

(b)

工夫

(B)

p *mf* *p*

(a'')

工夫

学習目標「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現をする」学習である。旋律の働きと歌詞の内容・曲想とのかかわりの学習を進めるながら曲にふさわしい表現を工夫して歌う学習の流れである。

ノートは段階を追って歌詞との関わりから音楽を形づくっている諸要素を生徒たちが知覚できるように求めており、かつ、それらが生み出す曲想の美しさをイメージをもって感じ取るようにねらって作成している。

学習の様子はおおむね次のような感じになる。旋律を歌いながら設問に対して記入したり、じっくりと楽譜を見てかかわりを読み取るという場面を設定する。「なぜ、ここに休符があるのか」「この記号の意図は」「ゆれゆれる」の歌詞が旋律が「ゆーれゆれる」となっているのは……と。

生徒たちは学級やグループまたは一人で歌ったりしながら知覚・感受し自分なりの思いや意図をもって表現しようとする。「僕はどうしても、この部分が一番すてきで、気に入っている。この部分をすてきに歌い上げたい」と必要な技能を練習し歌唱することになる。

目標とする力が付いたか、どうかは学ばせるところと、学んだことを生かして、自分なりに力を示す場面を設定すればよいだろう。または『夏の思い出』で学習したことを生かして、『小さい秋みつけた』で、指導・評価することもできるであろう。

補足であるが、『夏の思い出』は2部形式でできている。同じ旋律に対して、伴奏が変化することによって楽曲の雰囲気に変化をもたらしている。テクスチャについても学習できるポイントかなと思う。

終わりに

歌唱を例にあげ、考えられる実践を示してみた。新しい学習指導要領のもと、私たち音楽教師はこれからの時代の中で音楽科教育の担うものをしっかりと理解・認識し、教科教育としての授業実践を進めていかなければならない。私自身、音楽教育に関わる人たちとともに互いに学びあうなか、楽しみながらも、クリエイティブに音楽の教育実践を進めていきたいと思う。